3 作文

一 原稿用紙の使い方

① 題名を入れる場合は、一行目に上から三〜四マスあけて書く。

② 氏名を入れる場合は、氏名の下を一〜二マスあけて書く。

③ 作文の書き出しや、段落が改まったときの書き出しは、一マス下げて書く。

④ 読点「、」や句点「。」は、一マス分使う。
また、読点や句点が、行の先頭にくる場合は、前の行の終わりに入れる。（最後の文字と同じマス目か、欄外に入れる。）

⑤ 会話文や引用文は、改行し、「をつけて、いちばん上のマスから書き始める。（会話文の最後は、。」を一マスに書く。）

⑥ かぎかっこ「　」や、「！」・「？」などの符号は一マス、――や……などの記号は、二マス分使う。

【例】（①・②…などは、右の各項目を示す。）

二 仮名遣いの注意点

(1) 助詞の「は・へ・を」は、「は・へ・を」と書く。

(2) 「じ・ず」と発音するが、「ぢ・づ」と書く場合がある。
・二語で一つの言葉になった場合。（例）はなぢ（鼻血）
・同音が並び、下が濁って発音される場合。（例）ちぢむ（縮む）

(3) 「ア・イ・ウ・エ」列の長音（のばす音）は、「あ・い・う・え」をそえて表す。（例）おかあさん　おねえさん
・オ列だけは、「う」をそえて表す。（例）おとうさん
（例外）「お」と書く場合　→　こおり（氷）　とおい（遠い）

三 送り仮名の決まり

(1) 活用のある語は、活用語尾を送る。（例）読む→読ま（ない）
・「―しい」で終わる形容詞は、「し」から送る。（例）美しい

(2) 名詞には送り仮名を付けない。（例外）幸せ　情け
・転成名詞はもとの送り仮名の付け方に従う。（例）白い→白さ

(3) 副詞・連体詞・接続詞は、最後の音節を送る。（例）再び

(4) 複合語は、もとの一つ一つの付け方に従う。（例）話し合う

四 同音異義語・同訓異字

書き誤りやすいので、意味を考えて使い分け、書き分けをする。

(1) **同音異義語**（音は同じで、漢字や意味が異なる言葉。）
（例）「タイショウ」→　対照　対象　対称

(2) **同訓異字**（訓は同じで、漢字や意味が異なる言葉。）
（例）「おさめる」→　収める　納める　修める